

東日本大震災 ぱれっとからの支援④

昨年12月、ぱれっとに寄せられた震災被災地支援金の中から、下記活動団体に支援金をお渡ししたところ、お礼の言葉が届きました。

● 一般社団法人さくらプロジェクト3.11 理事長 小宮泰彦

この度は『さくらプロジェクト3.11』へのご支援誠に有難う御座いました。当団体においては、被災地の復興に繋がる支援を長期的視点で行なうために立ち上げたプロジェクトとなっています。内容と致しましては、被災地外より募金を集めており、それを桜の苗木に替えて被災地に1地域311本の植樹をします。ご賛同頂いた方々はサポーターと呼ばせて頂き、サポーター番号の連絡、植樹地が決まった際に植樹地を報告することとしています。これで終わりではなく、できますればサポーターの皆様は毎年現地に訪問して頂きながら、現地の皆様との交流の下、第二のふるさととして末永く交流があることを願っています。そうしていく中で現地への経済効果を望み、さらには桜が成木となり満開の桜が咲く頃には、その植樹地は名所地となって現地に大きな経済効果が訪れることを最終目標としています。2011年12月末現在、植樹地は6地域が決定し、その他候補地は9ヶ所となっておりますが、さらなる新規植樹地を求めながら活動していく予定です。また今春からの植樹を開始する準備に入っています。HPなどで活動報告をしていきますのでご覧下さい。引き続き復興の一助となる活動を頑張ってお参りたいと思います。

HP アドレス <http://www.sakura-p.org>

● 復興支援 癒しのプロ集団 チーム恵比寿 代表 加倉井 昌幸

私たちは昨年6月に、恵比寿の整体師やミュージシャンの数名で立ち上がった、東日本大震災支援を目的としたチームです。私は、震災直後の4月より、石巻・南相馬・大槌・陸前高田へ行き、震災の爪痕もすさまじい被災地の避難所で、整体ボランティアをしてきました。活動を重ねるにつれ、継続することの必要性を実感。より被災者の方の望まれる活動をしていきたいという思いから、癒しのプロ集団チーム恵比寿を立ち上げました。構成メンバーは、整体師・セラピスト・ネイリスト・美容師・ミュージシャン・受付などのサポートスタッフとドライバーさんです。主に岩手県陸前高田市と大船渡市の仮設住宅の集会所で毎月活動をしています。単に腰がいたい方の腰を楽にするという活動ではなく、被災した方のそばにいて話しをお聞きすることを大事にしています。現在被災地では、ボランティアがピーク時の1割を切ったと言われていますが、参加した方が被災地で感じたことを、周りの方に伝えていくことで、風化を少しでも遅らせることができるのではないかと思います。活動は、「被災地に整体院や美容院ができて、被災者の自立の妨げになるからもう来ないでください」と言われる時まで続けます。早い復興と、晴れてチーム恵比寿が解散できる日が来るのを望んでいます。この度は活動へのご支援、ありがとうございました。

HP アドレス <http://www.facebook.com/team.ebisu/>

クリスマスに陸前高田・大船渡で支援活動

去る12月25日(日)、「癒しのプロ集団 チーム恵比寿」の活動に、たまり場のボランティアやスタッフの知人など、ぱれっと関係者9名を含めた総勢64名が参加しました。被災地の子供たちにクリスマスプレゼントを届ける「サンタが100人やってきた！」プロジェクトに合わせ、規模を拡大。場所は、陸前高田と大船渡を中心に、集会所や学校など10ヶ所の活動先に分かれました。プロの整体師によるマッサージと、プロの落語家、楽器奏者、ゴスペルなどのパフォーマンス、会場設営や受け付けなど、それぞれの役割を限られたスペースと備品を工夫しながら、現地で初めて会ったとは思えないチームワークで活躍していました。マイクロバスで早朝降り立った被災地では、津波により町が飲み込まれてしまった現状を前に、誰もが言葉にならず、その様子を心に焼き付けたことは言うまでもありません。皆様からの支援金により、大変貴重な機会を与えられましたことに、感謝いたします。



【津波の威力に耐えた一本松】



【活動の様子】

「極寒の中で」

たまり場ぱれっと運営ボランティア 中本 真一

私は、仮設住宅の集会所で、マッサージやメイクアップのボランティアのサポートをしました。現地は、非常に寒く、早朝は5分程外にいると手と耳の感覚がなくなる程でした。そのような極寒の中で、仮設のプレハブとは、暖房器具はありますが、住むにはあまりにも厳しいものだと感じました。仮設住宅で住んでいるということは、その多くの方が家を流されているということであり、住んでいる方々はとても深い心の傷を負っているのも事実であります。その方々の前に、自分自身何ができるのかを考えました。同じ日本人として、つらい思いをしたら、助けになりたいし、力になりたい。私ができることは、体験した状況を伝えることかもしれない。風化させない、継続することが大事だと感じました。

陸前高田市におけるボランティア活動について

たまり場ぱれっと運営ボランティア 荒井 拓也

現地に足を運びそして実際に自分の目で見た陸前高田市は衝撃的でした。かつて

家々が立ち並んでいたであろうその地には一面の荒野が広がり、かろうじて残った建物にも生々しい津波の傷跡が刻まれていました。自然災害の恐ろしさを知るとともに、あの日に実際に被災した人たちの事を考えるととても気持ちが重くなりました。しかし、この活動を通して現地の人たちと直接ふれあい、「癒しのプロ集団チーム恵比寿」の活動を楽しみにしている事、そして「ありがとう」とお礼を言われた事がそんな自分の気持ちを消してくれました。確かに大きな悲しみはあったけれど、それを支えてくれる人が日本中にたくさんいるのだと現地の方々は語ります。陸前高田の人たちは過去を乗り越え未来に向かってより力強く生きていこうとしているのだということを感じました。

ご報告

東日本大震災の被災地への復興を願って、皆様からお寄せいただきました支援金

2012年1月末現在 **2,481,012円**

まだまだ、皆様からの支援金を募っています。ご協力のほどどうぞよろしく願いたします。

ネットワークボード

今回は朗読CD『震災ポエム『海をうらまない』』のご紹介です。震災からまもなく1年を迎えます。岩手県山田町に住む佐藤啓子さんは地震と津波に遭遇。翌日から避難所で配給されたノートに余震に怯えながらも日々感じたことを「詩」に綴ってきました。普段から詩を書くのが好きな佐藤さん。『SHINSUI』『同希生(どうきせい)』などの個性的な作品が去年8月に1冊の本として刊行され、今年1月にはこの朗読CDが発売されています。ナレーター飯島晶子さんの朗読と、谷川賢作さんのピアノ、おおたか静流さんの声。時には優しく、時には悲しく、聞く人の心を揺さぶります。

東日本大震災復興支援
朗読CD『震災ポエム』

『海をうらまない』

原作 佐藤啓子

(障がい者ケアホーム希望 入居者)

企画・朗読 飯島晶子

ピアノ 谷川賢作

ヴォイス おおたか静流

(2012年1月1日発売)

定価 1,000円(税込)

お問合せ先

VoiceK (ヴォイスケ)

TEL&FAX 03-3998-8254

メールアドレス info@voicek.co.jp

<http://voicek.co.jp/>

※ アマゾンでもご購入できます。